

(様式1)

令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立桜堤中学校
校長名	吉岡 大司

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・どの教科も全国平均を上回る、または、1～3ポイント足りない結果となったが、全体的に、目標値に近づいた。特に、3年英語の、1観点が全国平均を上回った。・1年の国語と英語においては、それぞれの、2観点が目標値を上回る結果となった。	<ul style="list-style-type: none">・1年の国語は、目標値を上回ったが、DE層が43.2%であった。他の学年においては、数学は、2年62%、3年57%。社会は、2年52%、3年53%。理科は、2年65%、3年65%、であり高い。英語においても2年58%3年47%となりDE層をどのように引き上げるかが課題である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「勉強するときは、自分で計画を立てていますか」では、2年54.9%3年61.2%は、全国より10%以上、上回っている。・「テストでまちがえた問題はあとでやり直していますか」では、2年が69.3%3年65.8%となり、全国より5～10%上回っている。・ノートの取り方の工夫は、3年65.8%全国67.5%で全国を上回っている。・「3時間以上学習している」と回答した生徒の割合が、特に、3年生が、他学年と比べて10～20%上回っている。さらに、昨年度と比べても、向上している。	<ul style="list-style-type: none">・「勉強するときは自分で計画を立てていますか」では、1年52.2%で全国56.3%より低い。・「テストでまちがえた問題はあとでやり直していますか」では1年57.9%と全国68.4%より低い。・ノートの取り方の工夫では、1年72.3%2年65.4%となり全国より下である。・3学年において友達とのメールやSNSでのやり取りの頻度に関して「毎日ひんばんにする」という回答が、全国47.%に対して57.2%と10%も高い数値であった。・平日のテレビ、動画、インターネット、ゲームの時間に対する回答の中央値が、3時間以上となり、全国の「2時間くらい」を10ポイント以上超えている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・朝読書が国語の成果の一部である。・英検に、本校の3人に1人が受検し、合格率も例年向上し、90%以上の合格率である。・全学年でタイピング学習や5教科のコンテストを実施し、タブレット端末を活用しやすいデジタル学習の環境を工夫できている。	<ul style="list-style-type: none">・他教科の底上げを目指す取組を考える必要がある。・ミライシードを各教科で、復習問題として、活用しているが、取り組む生徒と全く取り組まない生徒（特に、DE層）の二極化が進んでいる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 桜堤中学学習スタンダードの徹底を図り、教師の授業力を育み、授業改善を推進する

生徒の基礎学力の定着には、授業規律の徹底や教師の授業力向上、授業改善が必須である、全教科の授業の導入時に「学習のねらい」を明示したり、授業終わりには、学習のねらいが達成できたかなどの生徒のアウトプットの場合「学習のまとめ」を設定したりすることの徹底を図る。

具体的な授業改善

- (1) 授業の準備として、教材研究を十分行った上で実施する。
- (2) 授業のはじめに、本時の「めあて」を板書し、明示する。
*課題を把握するなどの「考える」時間の確保や前時の復習や既習事項の確実な実行。
- (3) 授業の展開（学習方法の工夫）
*自力解決（自分なりの考えで解決をさせる。）
*学び合い（ペアーワークやグループ学習等の導入）
- (4) まとめの時間の確保
*授業の中間、25分を意識した授業計画をすることで、まとめを確実に実施する。
*授業の始まりと終わりの時間を守り、1単位時間50分の学習時間の確保。
- (5) 少人数習熟度別指導などを活用（多様な授業形態やICT機器等の活用）
- (6) 次の授業準備（机上に、教科書やノート等の学習道具が揃える）など、生徒自らがチェックできる取組やチャイム着席の徹底を図り、生徒が主体的に取り組む姿勢を育む。

(2) 紙媒体の教材やデジタルを活用した学習を併合した学習指導

本校の学力向上の喫緊の課題は、DE層の底上げである。デジタルを活用した学習（ロイロノート等）やAI教材を活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に取り組む必要がある。

デジタル学習を活用した授業や家庭学習、定期考査前の朝学習では、各教科担当が、定期考査対策用の問題を作成するなどして、ある一定期間、デジタル学習を活用した計画を推進する。

さらに、ドリル的な紙媒体の教材を繰り返し、毎時間、適量を反復的に行わせることで、生徒が苦手な問題に対して、つまずかずに、基礎を固められるよう指導の一層の徹底を図る。

このことで、DE層が主体的、自律的な学習ができ、生徒自ら効果的な定着方法を理解し、学習が継続できるようにする。そして、ABC層の生徒に対しても、一層の学習の習熟度を深めさせるため、「ふりかえりシート」や「ミライシード」、「理科社会のデータベース」を活用して、基礎基本の定着や応用力を身に付けさせるための基礎とする。

令和5年度より、全校生徒のタブレット端末機に、スケジュール管理アプリのジョルテをインストールし、活用してみたが、その成果がでた生徒とそうでない生徒の二極化であったため、本校独自のエクセルファイルで作成した日課表とその紙媒体を、生徒が選択して提出させることで、「自ら学び、考え行動し続ける力」や「自己調整力」を育成する。

このことで、書く／記録する習慣や時間、日時を意識する習慣、毎日を振り返る習慣を身に付けさせ、毎日、ロイロノートで担任へ提出させ、生徒の生活リズムを確認し、生徒に適宜なアドバイスやフィードバックを行う取組を行う。

《実施時期》

- (1) つまずきのある（C層、D層）生徒への取組強化として、振り返り強化期間の設定
「ふりかえりシート」や「ミライシード」等活用する。
I期 9月2日～10月7日 II期 1月11日～4月
- (2) 学力向上委員会の教員が中心となり、夏休み補習教室や11月から毎週の学力補習教室等の企画・運営を提案させ、全学年で実施する。
- (3) 令和7年1月から3月までに、当該学年の振り返りを実施（全学年実施）
SSSに冬休み前にふりかえりシートや学力調査等の問題を印刷するなどして準備させ、テストや問題に慣れることを定着させ、「できる」「分かる」までの学びを繰り返す。

(3) 校内教職員研修を充実させた取組

研究主任と学力向上委員会を中心に、DE層の5教科の底上げに取り組む。

特に、キーワードとして「教科横断型授業づくり」を掲げ、主題は、「確かな学力を定着させる教科横断型授業づくりを通して、生徒の自己肯定感を高める」とし、学習形態の開発等の校内研修を推進する

7月10日(水) 「横断型授業づくりとは」 基調講演
千葉大学 松井 聡 教授

9月25日(水) 4人組の学びあいの方法検討実践
千葉大学 松井 聡 教授

10月15日(火)～11月15日(金)
9教科の授業で、4人組の話し合い活動を取り入れた研究授業
生徒と教員へ授業アンケートを実施し、効果と課題を検証する。

1月15日(水) 成果と課題、次年度の取組確認

(4) 各種検定を推奨し、タイピング強化週間や5教科「コンテスト」の実施

生徒に、各種検定(漢検・英検・数検)を積極的に受検するよう、声かけや学習支援を行うことで、家庭学習や自学自習の機会を設定する。

朝学習(毎週火曜日～金曜日の8:20～8:30)を活用したR4より実施しているタイピング強化週間(年2回検定)や5教科「コンテスト」を計画的に実施する。

さらに、朝読書を、計画的に実施することで、授業に対する構えや理解力の向上を図る。

3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各教科の授業で「ふりかえりシート」や「ミライシード」を活用し、目標値よりも低い内容項目の復習を行い、まずは、全国平均より、1以上上げる。
- ・各教科の授業や自宅学習において、繰り返し学習を行い、基礎学力の定着を図り、DE層をBC層引き上げる。特に、D層からC層、C層からB層へ引き上げる。DE層の割合を5%減らす。